

平成 28 年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4 年間の目標 (平成 28 年度策定)	1 年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月7日実施)	総合評価 (3月22日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	生徒の学力向上と希望進路を保障する教育課程編成と授業改善に取り組む。	①授業時数確保と生徒の希望進路を保障する教育課程を編成する。 ②授業内容に対する生徒の理解度を向上させる。	①平成 30 年度実施の教育課程編成表を編成する。 ②アクティブ・ラーニング型授業実践の研修の充実を図るとともに、学習状況調査、実力テスト等の結果を活用し、生徒の客観的な学力把握を基に授業改善を行う。	①新しい教育課程を作成することができたか。 ②生徒による授業評価の数値を上げることができたか。	①各教科の意見を踏まえて平成 30 年度実施の教育課程を作成できた。 ②外部講師によるアクティブラーニング研修会を実施し、様々なデータを基に生徒の学力の適切な把握に努め、生徒による授業評価は前年度の数値より若干アップした。	①新学習指導要領実施への準備作業の工程を検討する必要がある。 ②引き続き、実りある研修会を効果的に実施するとともに、生徒の学習面でのニーズを的確に把握しつつ、組織的な授業改善に取り組む。	①時代の趨勢を踏まえた、また地域への貢献に資する新カリキュラムの検討を望みたい。 ②アクティブラーニングの視点からの授業改善をどう行なっていくか具体的な行動計画の作成が望まれる。	①平成 30 年度実施の教育課程は完成できた。カリキュラムの効果的な運用に努めるとともに、次期指導要領を見据えて準備せねばならない。 ②生徒による授業評価に授業改善の成果を確認できた。教員個々の授業改善の行動目標の設定、取組みの具体についての検討が必要である。	①県や国の動向を把握しながら、授業時数確保、希望進路実現の方策について検討する。 ②主体的・対話的で深い学びを実現するために、アクティブラーニングの視点からの授業改善のために教科会等を充実させ、教科としての取組みを具体化する。
2 生徒指導・支援	①生徒の主体的な活動による学校行事や生徒会活動等を通し、生徒がお互いを尊重し、協働する姿勢を身に付けさせる。 ②生徒の多様性を踏まえた支援体制の充実を図る。(職員の人権意識の向上を含む)	①部活動の活性化を通して責任感や連帯感の必要性を理解させる。 ②支援教育について共通認識を深め、生徒理解と課題解決の力を身に付ける。	①部長会・委員長会議を開催すると共に、全体に向けて高い規範意識や協力態勢を身につけさせる。 ②スクールカウンセラー等の協力を得ながら、生徒理解に資する研修会を実施する。	①生徒の自己責任力や規範意識を高めることができたか。 ②研修会が生徒理解と生徒指導に役立つものとなったか。	① 部長会・委員長会議を6回実施し、協議等を通して、部員、委員としての自覚、規範意識を向上させ、あいさつの励行や定時の一斉下校を徹底させることができた。 ②外部講師により、発達障害生徒への対応についての研修会を実施し、適切な指導方法の共通理解を進めることができた。	①部活動の更なる活性化を目指して、生徒の主体性の向上に努める必要がある。 ②教育相談チームの活動の充実、スクールカウンセラーとのより密接な連携を促進する必要がある。	①規範意識についての生徒の自覚と教員の見方とのギャップが気になる。その差を踏まえた指導を模索するべきではないか。 ②引き続き生徒のニーズを的確に把握して支援教育を充実させてほしい。	①規範意識の向上については一定の成果を挙げることができた。意識の向上が必ずしも実践につながっていない面がある。 ②教育相談チームを発足させ効果的な研修会を実施することができた。日々の教育活動におけるチームの動きをより円滑化させねばならない。	①地域と連携したあいさつ運動等の取組みを行なう。 ②教育相談年間プログラムを策定し、業務を見える化するとともに、生徒情報共有会、ケース会議等を継続的に実施して行く。
3 進路指導・支援	卒業 10 年後の未来像の実現に向け、生徒の主体的な進路選択を支援する体制の充実を図る。	①自らの未来像を描かせ、短期および長期の目標を立てさせて、そこにつながる道筋を考えさせる。 ②生徒の希望進路を実現させる。	①卒業生の話から、高校卒業後の進路を考えさせる。また、社会見学や職業人の話から自らの職業について考えさせる。 ②3 学年及びその保護者に対する進路学習の機会を充実させる。	①卒業後の進路や、将来就く職業について具体的に目標が立てられたか。 ②進路実現の目標を達成できたか。	①総合的な学習の時間を効果的に活用し、卒業生、上級学校講師、職業人からの講話等を通して、短期的、長期的目標を設定させることができた。 ②大学入学を目指す生徒へ、校外模擬試験、実力テストの結果をフィードバックし、希望進路実現のための支援を行った。	①各学年の進路に関するニーズに応じた適切な支援、指導をより充実させる必要がある。 ②キャリア支援グループと各学年との連携をより充実させ、生徒個々の進路希望を適切な時期に設定、把握させ、希望進路をより効果的に実現させる努力を継続する。	①人工知能の発達により職業観も変化しつつあり、そうした近未来的な視点をも取り込んだ進路目標を考えさせるべきである。 ②引き続き、有意義な情報提供を継続し、効果的なキャリア支援を行なってもらいたい。	①総合的な学習の時間を活用し、様々な方法でキャリア支援を行なうことができた。生徒のニーズと時代の趨勢を踏まえて、より具体的に進路目標を設定させる必要がある。 ②大学入試合格実績については一定の成果を挙げることができた。更なる実績の向上に努めねばならない。	①進路の長期的、短期的目標を生徒が効果的に設定できるよう、総合的な学習の時間の内容をさらに有意義に、綿密に計画する。 ②外部テストや調査を活用した学力に関する課題把握を行い、解決のための取組みを教科が主体となって実践する。

4	地域等との協働	地域や保護者との連携を推進し、開かれた学校づくりを進める。	地域との連携の機会を増やし、地域との相互理解を深める。	<p>①栄区制 30 周年に係る地域行事に協力する等、地域との交流を進める。</p> <p>②学校だよりを発行し、保護者や地域に発信する。</p>	<p>①地域の行事への参加の機会、地域の方が学校に足を運ぶ機会を増やせたか。</p> <p>②学校だより発行やホームページ更新が定期的に行えたか。</p>	<p>①栄区との連携により、政治参加教育、部活動参加意識、健康教育の各方面において効果的な指導を実施することができた。また、区民祭りや近隣小学校の防災教育活動に本校生徒が参加、貢献することができた。</p> <p>②学校だよりは 11 回発行し、975 部を豊田連合町内会を通して配布できた。ホームページは 23 回更新を行った。</p>	<p>①コミュニティスクールの導入を見据えて、地域とのより充実した関係を発展させるべく、更なる交流を工夫し、実施して行かねばならない。</p> <p>②地域、中学生、保護者の本校についての理解を、より深めてもらうために、効果的な広報活動を更に充実していく。</p>	<p>①②地域の防災活動等への協力については評価したい。引き続き、地域等の協働、連携を内容的に充実させてほしい。</p>	<p>①②地域の行事への参加、地域への広報活動については一定の成果を挙げることができた。地域との連携、相互理解を内容的に、より深めて行かねばならない。</p>	<p>①②近いうちに導入されるコミュニティスクールに関する制度の形態、内容について具体的な情報を得ながら、既存の地域への貢献、発信の方法の見直しを図り、地域等との協働を効果的に行なう。</p>
5	学校管理 学校運営	安全・安心な学校づくりを推進する。	<p>①老朽化や危険箇所への対応を行う。</p> <p>②実践的な防災訓練を行う。</p> <p>③事故、不祥事の未然防止を徹底する。</p>	<p>①安全点検を定期的に行い、危険箇所を把握し迅速に改善する。</p> <p>②災害時に迅速に対応できる職員の体制を構築し、効果的な防災訓練を行う。</p> <p>③全ての業務において事故、不祥事未然防止を徹底する。</p>	<p>①教室等の環境整備が進んだか。</p> <p>②防災訓練において、職員・生徒の防災意識が向上したか。</p> <p>③事故、不祥事ゼロを達成できたか。</p>	<p>①定期的な校内巡回により発見された危険箇所等について、可能な限り、適切な処置を行った。</p> <p>②年 2 回の避難訓練の他に、職員には非常用ベルの操作に関する学習会、及び災害図上研修 D I G (Disaster Imagination Game) を実施し、防災意識を向上させることができた。</p> <p>③不祥事ゼロプログラムに沿って、様々な事項における事故、不祥事防止に関する研修会等を実施し、未然防止を徹底できた。</p>	<p>①生徒がより、安全に、安心して、学習活動等を送れるよう、物理的な教育環境の充実について、引き続き、県当局と連携しながら、努めていく。</p> <p>②D I G を職員から生徒へ伝達し、学校一丸となって、防災意識の更なる向上を進める必要がある。</p> <p>③職員の規範意識の向上に、引き続き取り組みを進めるとともに、職場環境の改善、当事者意識の確立を怠らず、事故・不祥事の未然防止を徹底して行く。</p>	<p>①県財政との関係もあるが、教育環境整備について、地道に努力を継続してほしい。</p> <p>②D I G はぜひ生徒に体験させ、防災意識の向上に努めてもらいたい。</p> <p>③教育活動が円滑に行なわれるよう、引き続き、事故・不祥事の未然防止の徹底を図ってほしい。</p>	<p>①教育施設の破損、故障箇所の修繕をある程度行なうことができた。継続して教育環境の改善に努める必要がある。</p> <p>②防災訓練、職員対象の災害図上訓練を効果的に実施することができた。生徒を対象とした D I G を実施せねばならない。</p> <p>③事故・不祥事を未然に防止することができた。引き続き、事故・不祥事ゼロを目指して、職員個々が常に当事者意識を持って未然防止に取り組みねばならない。</p>	<p>①定期的な施設の点検と修繕が必要な箇所の把握を確実に進めて行く。</p> <p>②生徒対象の D I G を実施し、地域を知るとともに学校全体の防災意識をより向上させる。</p> <p>③不祥事ゼロプログラムを確実に設定し、プログラムに沿って未然防止を徹底する。</p>